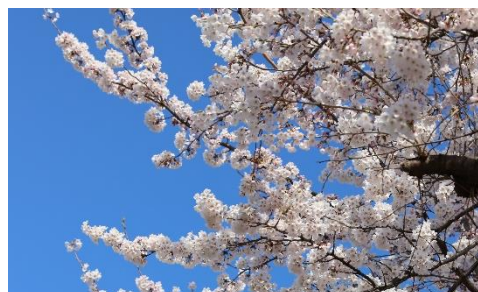




### 山形讃歌

山形では桜（ソメイヨシノ）は例年より早く満開になり、約1週間遅れてサクランボ、桃、ラ・フランスの花の開花がはじまりました。コロナ禍の今年も、我が郷土の草木は健気に順序どおり和ましてくれ、まもなくリンゴの白い花も咲くことでしょう。長く寒い季節風が収まり、春の景色が一斉に輝きだし、雪を抱いた月山や蔵王、葉山、飯豊連峰、朝日連峰を背景に山形の果樹地帯は、桃源郷を想わせる景色に変貌していくようです。そして、この時期



にふさわしい和歌が思い浮かびます。一首目は、「大鏡」にある「東風（こち）吹かばにほひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ」（訳：わが家の梅の花よ。東風が吹いたら、私のいる大宰府まで匂いを届けておくれ。主人がいないからと言って、春を忘れてはならないよ。）皆様ご存じの菅原道真が九州大宰府に左遷された時期に詠われたものです。二首目は、「古今和歌集」に載る「世の中にたえて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」（訳：もし世の中にまったく桜がなかったなら、桜の花が咲くのを待ち望んだり、散っていくことを悲しんだりすることもなく、春のひとの心はもっとのどかだっただろうに。）冬が終わり、ほかほかと陽気に包まれるのどかに過ごせるはずの春の季節、桜が咲くのを待ち望んだり、桜の花びらが散っていくのを悲しみ、心は一向に落ち着つかないものよと、在原業平が詠んだ歌です。このような「ニッポン」の普通の暮らしが早く戻るよう、心から祈念しているこの頃です。

さて、先頃山形県は、2020年国勢調査の速報値を発表しました。県全体の人口は106万8696人で、15年の前回調査より5万5195人減り、1920年の調査開始以来、初めて県内全市町村で減少（4.9%も過去最大の減少幅）。特に、減少率が大きいのは山間部の自治体。減少数の上位は県庁所在地の山形市を含む市部が占め、自然減に加えて県外に流出する傾向がさらに顕著となってきたようです。この結果を受けて、県は「減少率の拡大が大きな課題。県のビジョンに基づき対策に取り組むことがより重要となった」とコメントしていますが、以下のような巷（特に若い年代層）の閉塞感をいかに払拭できるか、早急に具体化した施策を推進してほしいと思います。

転勤・転職組の SNS から… ●各県の20万都市と比較して魅力は中間くらい。

●食べ物は美味しいし、災害が少ないのも魅力だが、子育て支援は微妙。ただ、保育園などは都市部より入りやすい。●求人が少ない、基本給・時給が安い、ガソリンはいつも高いし、観光以外の遊びに魅力がない。●山形の内陸から車で一時間内に移動できる仙台と比較されやすいハンディがいつもあるようだ。●千葉県の流山市、神奈川県相模原市などは、30代の子育て世代夫婦の転入が促進されるような工夫を行政主導で取り組んで大きな成果が表れている。



●山形県、そして各市町村は、「地域の10年後、20年後の納税額、居住人口を増やす」ことにつながる実際の工夫が弱い。●もろもろ、とにかく閉鎖性の強さを感じる。

